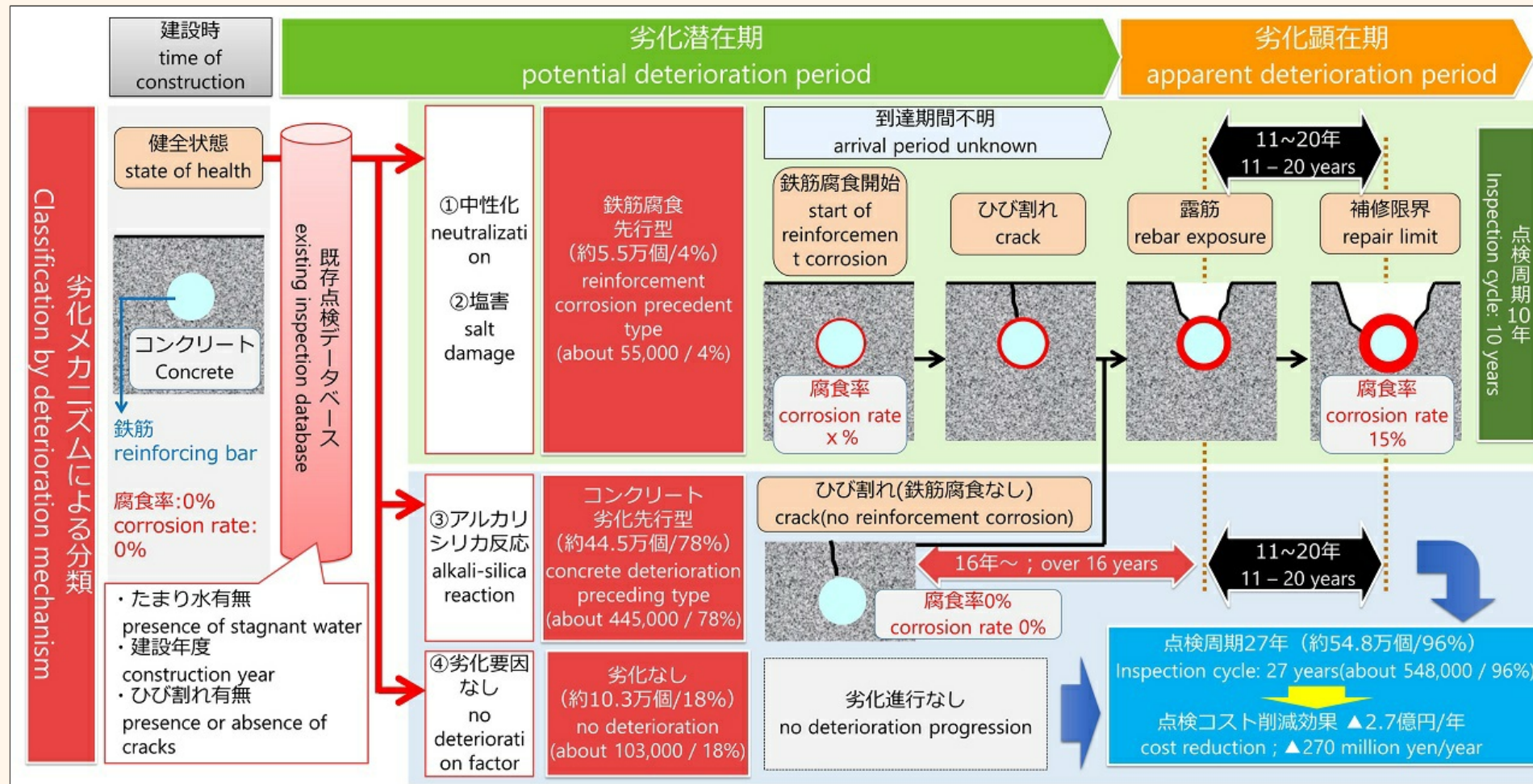




点検周期の最適化により維持管理コストを削減します

概要

マンホールなどの地中埋設コンクリート構造物は、設置環境や材料により劣化進行速度が区々であり、一定周期の点検で劣化状態を把握しメンテナンスを実施しています。本技術は、主な劣化要因を特定し、既存設備の調査や試験片による実験により劣化要因ごとのメカニズムの解明により、点検周期の最適化を実現しました。



特徴

- 中性化、海砂塩害、アルカリシリカ反応による鉄筋コンクリート劣化メカニズムを解明
- たまり水、建設年度、ひび割れの点検情報を用いた判定により点検周期の最適化を実現

利用シーン

- NTT鉄筋マンホールの点検周期を10年から27年へ延伸し、点検コスト削減が可能
- 他社の地中埋設コンクリート構造物への技術展開により維持管理コストの削減が可能

今後の展開

- 今後は、補修技術と合わせた検討を行い、点検から補修・補強までの総合的なメンテナンスの最適化をめざすとともに、他社設備への技術展開へも取り組めます。

出展社

日本電信電話株式会社

問い合わせ先 : rdforum-nw-ml@hco.ntt.co.jp